

富士市学校給食地場産品導入協議会（静岡県富士市） ～「三方（生産者・流通業者・学校給食）よし」の食材納入システムを構築～

代表者：会長 坂野 友廣
所在地：静岡県富士市
構成員：生産者、消費者、農協、栄養士、食材納入業者、
市場関係者、行政
活動開始年：平成18年



表彰理由

学校給食に地場産品を取り入れることにより、食育の推進や地場農業の発展、市場の活性化を目指す富士市学校給食地場産品導入協議会を平成18年に設立。

学校給食に地場産品を供給する場合の課題は、「価格」、「規格」、「量」といわれているが、まず、地元の卸売市場における地場産品の取扱量を調査し、学校給食への供給可能な地場産品の量を把握した上で、市場を介することにより、地場農産物を必要な規格で安定的に提供できる食材納入システムを構築している。

このシステムは、生産者にとってはPRの場となり、流通業者にとっては安定した取引先の確保、学校給食にとっては安心して地場農産物を注文できるという「三方よし」のシステムとなっている。この結果、富士市内の全学校の平均で、県産品割合を平成18年度の28.6%から平成23年度の41.9%まで向上、地場産品の導入に大きく貢献した。

他の地域でも参考となる取組であり、高く評価されるものである。

取組内容

1. 学校給食青果物利用状況、市場青果物供給量調査の実施
○地場産品の学校給食への導入を促進することを目的に、学校給食における地場の青果物の利用状況と地元の卸売市場における地場産品の青果物供給量を調査。この調査から、学校給食においてさらに活用可能な青果物やその量を把握することが可能となった。
2. 地場農産物の情報提供と食育活動
○子ども達だけでなく、栄養士や調理師に、地場産品への理解を進めるため、管内エコファーマーの紹介ポスターや「富士地域の旬の農産物カレンダー」、地場農産物の調理法や特徴がわかる「富士地域農産物便利帳」を作成し、配布している。小学校への農家出前授業や交流給食のほか、園児父兄を対象とした野菜作り体験、給食メニュー作り体験や小中学生を対象とした親子農業体験などの取組を実施している。
3. 関係者における相互理解の醸成
○環境にやさしいエコファーマーが生産する地場野菜の利用推進を目指し、紹介ポスターの作成と併せ、栄養士、調理員を対象としたエコファーマー圃場交流会を平成18年より継続して開催している。
○学校給食に地場産品を供給する場合の課題（「価格」「規格」「量」）の解決や関係者の相互理解を深めるため、学校栄養士が納入業者を対象として、研修会を開催している。
4. 「三方よし」の食材納入システムを構築
○個人の努力による学校給食への地場産品の導入促進の取組は、栄養士の転勤や農家の納品負担等、取組の継続が難しいため、「特定の個人に負担をかけず学校給食に地場産品が積極的に納入できるシステムを構築すること」を理念に、市場を介する仕組みとすることで、特定の人負担をかけず、また天候の急変等にも対応できるシステムを構築した。生産者にとってはPRの場となり、流通業者にとっては安定した取引先の確保、学校給食にとっては安心して地場農産物を注文できるという「三方よし」のシステムとなっている。